

# 自立活動学習指導案

自閉症・情緒障害通級指導教室（あけぼの教室）3人（4年男子1人，4年女子2人）

指導者 T1 中水 一元 T2 河野由美子

- 1 活動名 分かりやすく伝えよう（心理的な安定：人間関係の形成：コミュニケーション）
- 2 活動の目標

- 自分の考えや伝えたい内容を伝えるときの大切なポイント（「一つずつ」、「はっきりと」、「確認しながら」）に気を付けて、他者とコミュニケーションを図ることができる。
- いろいろなゲームをする中で、自分の考えや伝えたい内容を分かりやすく伝えながら、友達と楽しく活動することができる。
- 自分ができるようになったことに気付いたり、互いのよさや頑張りに気付く、認め合ったりすることができる。

## 3 活動について

### (1) 活動設定の理由

対象となる子ども3人は、あけぼの教室の様々な活動に積極的に参加することができる。また、話をすることも好きで、友達や教師との関わりを楽しんでいる。しかし、他者と関わりをもつ中で、相手の気持ちや状況を把握しづらいために、自分のペースで一方向的に話してしまうことがある。そのために、伝えたい内容が相手に十分に伝わらず、苛立ったり焦ったりする様子もしばしば見られる。また、人前で話すことに不安があり、声が小さくなってしまったり、伝える内容を上手く整理して話すことができなかつたりすることから、自分の意見を発表する場面や友達と話し合う場面において、上手くコミュニケーションが図れず、自信をもって学習に取り組むことができないこともある。

そこで、本活動では、相手に分かりやすく伝えるための大切なポイント（「一つずつ」、「はっきりと」、「確認しながら」）を意識して、自分の考えや伝えたい内容を友達に分かりやすく伝えることができるようにする。また、大切なポイントに気を付けながら互いの考えや伝えたい内容を伝え合うことによって、友達と関わり合いながら、楽しく活動することができるようにする。さらには、互いのよさや頑張りを認め合うことで、自分の考えを他者に分かりやすく伝えることへの意欲や積極性を育むことができるようにする。

指導に当たっては、まず、自分の考えや伝えたい内容の伝え方を例示した教師の役割演技（VTR）を見ることで、分かりやすく伝えるために大切な三つのポイント（「一つずつ」、「はっきりと」、「確認しながら」）に気付くことができるようにする。なお、相手意識を高めるために、三つのポイントの中で、「確認しながら」の意識付けを特に図るようにすることで、「いいですか。」、「分かりましたか。」というように相手に伝わったかどうかを確認しながら活動を進めていくことができるようにする。取り扱うクイズやゲームは、友達と関わりながら楽しく活動できるような内容にする。とともに、三つのポイントに気を付けて自分の考えや伝えたい内容を伝えることを目的とする。また、簡単なルールにしたり、分かりやすく伝えるための話型を準備したりすることで、「少しずつ伝えられるようになってきた。」、「友達に分かりやすく伝えることができた。」というような喜びや成功経験を十分に味わうことができるようにする。さらに、話し手と聞き手を明確に位置付けることによって、聞き手が話し手に良かったところを伝えたり、分かりやすく伝えるための方法をアドバイスしたりしながら活動を進めることができるようにする。学習の終末段階では、活動の様子を録画したVTRや活動を通して活用する自己評価カードによって振り返りを行うことで、学習の積み重ねや自分自身の成長を実感できるようにしたり、互いのよさや頑張りに気付くことができるようにしたりする。

このような学習を通して、子どもたちは、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付け、他者と円滑にコミュニケーションを図ることができるようになってくるのではないかと考える。また、友達に自分の考えや伝えたい内容を伝えたり、互いのよさや頑張りを認め合ったりすることで、相手に分かりやすく伝えることができたという喜びや、学習に対する達成感を抱くことができると考える。このことは、子どもの自己肯定感を高めると共に、周囲の人ともっとコミュニケーションを図っていこうとする意欲につながり、子どもの生活を更に豊かにしていくことになるのではないかと考える。

(2) 子どもの実態

		A児	B児	C児
教育的ニーズ		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや考えを落ち着いて伝えることができるようになること。</li> <li>場や相手の状況に応じて、適切な行動ができるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の気持ちを考えた言動ができるようになること。</li> <li>集団の場で、自分の気持ちを言葉で伝えることができるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや考えを自信をもって伝えることができるようになること。</li> <li>上手くできないときに、気持ちを切り替えることができるようになること。</li> </ul>
心理的な安定		<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しい気持ちやうれしい気持ちを抑えきれなくなり、場にそぐわない言動をとってしまうことがある。しかし、言葉掛けによって、周りの状況を判断することができるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めてのことへの不安傾向が強かったり、苦手なことに対して消極的になったりする。しかし、活動の流れや方法を示すことで、落ち着いて取り組むことができるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できないことや苦手なことがあると、気持ちが落ち込みやすいことがある。しかし、言葉掛けによって、前向きな気持ちになれるようになってきた。</li> </ul>
人間関係の形成	他者との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から相手に声を掛けることができるが、口調が強くなってしまっていることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し掛けられると、誰とでも話をするができるが、積極的ではなく、一人の時間も好きである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親しい友達や教師には話し掛けることができるが、慣れるまでに時間が掛かる。</li> </ul>
	自己の理解と行動の調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況の把握が苦手なために、周りに合わせるができず、自分のペースで勝手に物事を進めてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>できることは積極的に活動することができるが、自信のないことになると消極的になり、黙ってしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しがもてず、自信がないことに対しては、言動が消極的になることがある。</li> </ul>
コミュニケーション	基礎的能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えが言葉で上手く伝わらないと、落ち着かなくなってしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し掛けられると応えることができるが、会話を楽しんだり続けたりすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>親しい友達には自分から話し掛け、会話を楽しむことができる。</li> </ul>
	言語の受容と表出	<ul style="list-style-type: none"> <li>周りの人との会話を楽しんでいるが、自分の興味のある話を一方的にしてしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを分かりやすく伝えることが難しい。</li> <li>話したいことを一方的に話してしまうことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたいことを自分の言葉で順序立てて、分かりやすく話すことが苦手である。</li> </ul>

4 指導に当たって

(1) 「自分事の問い」をもつための手立ての充実【研究内容1】

- 個別の教育支援計画や保護者や在籍校担任によるチェックリストの活用、日常場面の観察など、アセスメントを充実させることで、子どもの実態を把握し、実態に応じた「自分事の問い」を想定する。
- 「できたかなカード」（自己評価カード）には、活動を通して意識させたい大切なポイントを明記し、子どもたちがそれを基に個人のめあて（「今日頑張ること」）を設定することができるようにする。また、活動の終了時にできたかどうかを記録することで、できたことやできるようになったことを確認し、次時の個人のめあての設定につなげることができるようにする。
- 評価資料を作成することで、教師の手立てや子どもの学習状況を振り返り、次時の「自分事の問い」につながる個人目標を設定することができるようにする。

(2) 「自分事の問い」の解決につながる「学び合い」の設定【研究内容2】

- 大切なポイントを示したソーシャルスキルカードを活用することで、個人のめあて（「今日頑張ること」）を意識して、自分の考えや伝えたい内容を分かりやすく伝えることができるようにする。
- 自他のよさを見付け、伝え合ったり認め合ったりする場を設定することで、個人のめあて（「今日頑張ること」）の解決につなげることができるようにする。

(3) 自己の変容を実感できる評価の在り方【研究内容3】

- 活動を通して、「できたかなカード」に自己評価することで、個人のめあて（「今日頑張ること」）の達成や学習の成果を実感することができるようにする。また、友達にも自分の頑張りを記入してもらおうことで、互いのよさに気付いたり認め合ったりしながら、自信をもって活動することができるようにする。

5 指導計画（総時数5時間）

次	時間	指導のねらいと主な活動内容	子どもの意識	家庭や在籍学級との連携
一 次	1	<p>「分かりやすく伝えるための大切なポイントは？」</p> <p>【指導のねらい】 相手に分かりやすく伝えるための大切なポイントに気付くことができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>VTRを見て、分かりやすい伝え方のポイントについて考える。</li> <li>分かりやすく伝えるための大切なポイントを確認する。</li> </ol> <p>「一つずつ」、「はっきりと」、「確認しながら」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>分かりやすく伝えるための大切なポイントを意識して、簡単なゲームに挑戦する。</li> <li>本時を振り返ると共に、本活動の学習への見通しをもつ。</li> </ol>	<p>どんなことに気を付ければ、相手に分かりやすく伝えることができるかな。</p> <p>三つのポイントに気を付けながらゲームにチャレンジするぞ。</p> <p>分かりやすく伝えることができるように、これからの学習に頑張って取り組むぞ。</p>	<p>目 標</p> <p>【家 庭】 分かりやすく伝えるための大切なポイントに気を付けて、家族と話をすることができる。</p> <p>【在籍学級】 分かりやすく伝えるための大切なポイントに気を付けて、学校生活の中で友達と話をすることができる。</p>
二 次	2	<p>「分かりやすく伝えよう1」</p> <p>第1時 「スリーヒントクイズⅠ」 第2時 「スリーヒントクイズⅡ」</p> <p>【活動のねらい】 大切なポイントに気を付けて、友達に考えや伝えたい内容を分かりやすく伝えることができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>分かりやすく伝えるための大切なポイントを確認する。</li> <li>「今日頑張ること」を決める。</li> <li>学習の進め方やクイズのルールを確認する。</li> <li>実際にクイズをする。</li> </ol> <p>(1) 何についてのクイズを出すか決める。 (2) 三つのヒントを考える。 (3) 大切なポイントに気を付けながら、三つのヒントを伝える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>振り返りをする。</li> </ol>	<p>今日はどのポイントに気を付けてクイズにチャレンジしようかな。</p> <p>友達に上手く伝わらないな。どのように伝えればいいかな。</p> <p>友達に褒められてうれしいな。自信が付いてきたぞ。次のクイズでも、分かりやすく伝えることができるように頑張るぞ。</p>	<p>連 携</p> <p>【家 庭】 分かりやすく伝えるための大切なポイントに気を付けて、家族と話をすることができたら、連絡ノートなどで通級担当者に知らせてもらう。</p> <p>【在籍学級】 分かりやすく伝えるための大切なポイントに気を付けて、学校生活の中で友達や先生と話をすることができたら、連絡ノートなどで通級担当者に知らせてもらう。</p>
三 次	2 (本時2/2)	<p>「分かりやすく伝えよう2」</p> <p>第1時 「動物マンションⅠ」 第2時 「動物マンションⅡ」</p> <p>【活動のねらい】 大切なポイントに気を付けて、友達に考えや伝えたい内容を分かりやすく伝えることができる。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>分かりやすく伝えるための大切なポイントを確認する。</li> <li>「今日頑張ること」を決める。</li> <li>学習の進め方やゲームのルールを確認する。</li> <li>実際にゲームをする。</li> </ol> <p>(1) マンションに見立てたワークシートに、動物カードを置く。 (2) 大切なポイントに気を付けながら、どこにどの動物が住んでいるかを伝える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>振り返りをする。</li> </ol>	<p>どのように説明すれば、相手に伝わるかな。</p> <p>なるほど。〇〇さんの伝え方は分かりやすいので、真似をしよう。</p> <p>相手に分かりやすく伝えることができるようになってきたぞ。学級の友達にも、三つのポイントに気を付けながら伝えることができるように頑張るぞ。</p>	

6 本 時 ( 5 / 5 )

(1) 目 標 ○ 大切なポイントに気を付けて、友達に考えや伝えたい内容を分かりやすく伝えることができる。

個人目標	A児 「分かりましたか。」「いいですか。」と友達に確認しながら、一つずつ自分の考えや伝えたい内容を伝えることができる。
	B児 分かりやすく伝えるためにはどのように言えばよいかを考え、相手に伝わる声の大きさを、考えや伝えたい内容を伝えることができる。
	C児 自分の考えや伝えたい内容をまとめ、自信をもって伝えることができる。

(2) 展 開 ○ 数字は、「自分の問い」に対するしかけ (1)教材・教具 (2)発問 (3)場 (4)連携) ☆はICT活用の留意点

過程(分)	主 な 学 習 活 動	子 ども に 応 じ た 具 体 的 な 手 立 て
		A 児 B 児 C 児
つかむ・見通す (8)	<p>1 前時までの学習について振り返る。</p> <p>2 分かりやすく伝えるための大切なポイント (「一つずつ」、「はつきりと」、「確認しながら」)を確認する。</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 本時のめあてを考える。 大切なポイントに気を付けて、友達に分かりやすく伝えよう。</p> <p>(2) めあてを声に出して読む。</p> <p>(3) 個人のめあて (「今日頑張ること」)を決める。</p> <p>4 活動の流れを確認する。 今日も、友達に分かりやすく伝えるぞ。</p> <p>5 実際にゲーム (「動物マシジョンII」)をする。</p> <p>(1) ゲームの進め方やルールを確認する。</p> <p>(2) ゲームをする。</p> <p>(3) VTRを見て、話し合う。【学び合い】 (相手に分かりやすく伝えることができるようになるために) VTRを見て、友達のよかったところや、もったところの方がいいと思うところを見付け出そう。</p> <p>早口で伝えていたから、次は、「はつきりと」伝えてみるよ。</p> <p>上手く伝わらなかつたな。どうすればいいのだろう。</p> <p>この学習で、自信が付いてきたぞ。学級の友達にも、分かりやすく伝えるぞ。</p>	<p>④ 連絡ノートを確認し、在籍学級や家庭で頑張ったことやできたことを称賛することで、活動への意欲を高めることができるようにする。</p> <p>① 題材マップを提示することで、本時の活動への見通しをもたせることができるようにする。</p> <p>② 「相手に分かりやすく伝えるときに大切な三つのポイントは、何だったかな。」と発問することで、自分の考えや伝えたい内容を伝えるときにどんなことに気を付ければいいのかを思い出すことができるようにする。</p> <p>① 「できたかなカード」(自己評価カード)を活用することで、個人のめあて (「今日頑張ること」)を明確にもつことができるようにする。</p> <p>① 分かりやすく伝えるための大切なポイントと子どものめあてを黒板に明示することで、常に大切なポイントや自分のめあてを意識して学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>② 「分かりましたか。」「いいですか。」という語型を活用することで、情報を一つずつ伝えることができるようにする。</p> <p>③ ① 分かりますか。」「いいですか。」という語型を活用することで、情報を一つずつ伝えることができるようにする。 ② 一人で作る時間を確保することで、じっくりと自分の考えをまとめ、自信をもって伝えることができるようにする。</p>
活動する (27)	<p>6 本時を振り返り、活動の感想や友達の良かったところを発表する。【自己評価・相互評価】</p> <p>7 活動全体のまとめをし、次時の活動について知る。</p>	<p>③ 話し手と聞き手を明確に位置付けることで、良かったところを伝えたり、分かりやすく伝えるための方法をアドバイスしたりしながら活動を進めることができるようにする。</p> <p>①③☆ 活動の様子を録画したVTRを見ることができるようになる。自分自身の姿を振り返ったり、互いのよさを認め合ったりすることができるようにする。</p> <p>① 「できたかなカード」(自己評価カード)を使って活動を振り返ることで、個人のめあて (「今日頑張ること」)を達成できたか自己評価したり、互いの頑張りやよさを相互評価したりすることができるようにする。また、活動全体を通じた自分の成長にも気付くことができるようにする。</p>